

(株)東京航業研究所、(有)文化財 COM

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。特に、大井氏館跡遺跡第14地点の調査にあたっては富士見市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。また、江川南遺跡第19地点の調査にあたっては上福岡市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略)

新井和枝、飯塚泰子、井上晴江、内田潔、大曾根キク子、笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、河野匠、河野格、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木勝弘、関田成美、高貝しず子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、村端和樹、若尾久美子、若林紀美代

(富士見市教育委員会) 飯田久子、上田寛、川上文明、佐々木真理子、島田仁、清水七枝、関根輝子、高野ナミ、塚本政勝、戸田美根子、富田茂夫、中川和弘、成田淑美、成田良一、羽田美代子、吉田信江

(上福岡市教育委員会) 長田弘毅、壺岐ヒサ子、井川弘、宇佐美弘澄、遠藤忠志、小田静夫、小野沢保孝、菊口繁子、西城満期子、鈴木ちい、滝沢久嘉、富寺佐代子、中村正、宮崎達夫、吉田寛

〈整理作業参加者〉(敬称略)

青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、福島雅子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1 : 300 遺構平面図・遺物出土状況図 1 : 60、1 : 30 炉などの詳細図 1 : 30
土器実測図 1 : 4 土器拓影図 1 : 3 石器実測図 1 : 3、2 : 3 銭 1 : 1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土 
土器 ● 石器★ 黒曜石・チャート▲ 礫○

(4) 土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  撚糸文 

(5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第3表 2003年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡・地点名	申請地	面積(㎡)	原因	試掘期間	調査期間	備考
1	鶴ヶ岡外遺跡第1地点	鶴ヶ岡5-177-3	5,526	事業所	2003.12.19~2004.1.22	2004.1.19~2.20	試掘後、調査会で本調査
2	鶴ヶ岡外遺跡第4地点	鶴ヶ岡1771-1他	5,911	給食センター	2003.12.10~12.24		試掘調査
3	亀居遺跡第57地点	鶴ヶ岡1-1-1	1,356	店舗	2003.4.24~4.28		試掘調査
4	鶴ヶ舞遺跡第7地点	鶴ヶ舞1-65-1	2,030	分譲住宅	2003.5.29~6.14	2003.6.23~7.3	試掘後、調査会で本調査
5	江川東遺跡第7地点	東久保1-160-47	88	個人住宅	2004.1.4		試掘調査
6	江川東遺跡第8地点	東久保1丁目150他	6,137	共同住宅	2004.3.25~4.7		試掘調査
7	江川南遺跡第18地点	東久保258-51,52他	240	共同住宅	2003.7.11~7.16		試掘調査
8	江川南遺跡第19地点	東久保1-185-1	1,129	店舗	2003.9.18~10.8	2003.10.10~11.14	試掘後、調査会で本調査
9	江川南遺跡第6地点	亀久保3-193	10	店舗	2003.4.16~4.24		試掘調査
10	東久保遺跡第53地点	東久保4-10	408	共同住宅	2003.5.7~5.22		試掘調査
11	東久保遺跡第54地点	東久保19-1	798	共同住宅	2003.5.9~5.22		試掘調査
12	東久保遺跡第55地点	東久保18-7	165	個人住宅	2003.6.9~6.12		試掘調査
13	東久保遺跡第56地点	東久保15-12	165	個人住宅	2003.7.31~8.5		試掘調査
14	東久保遺跡第57地点	東久保258-26	133	個人住宅	2003.9.29~10.1		試掘調査
15	東久保遺跡第57地点	ふじみ野2-4-3	133	個人住宅	2003.9.29~10.1		試掘調査
16	東久保西遺跡第16地点	東久保10-6	273	個人住宅	2003.6.3~6.4		試掘調査
17	東中学校西遺跡第23地点	東久保33-6画地	1,233	共同住宅	2003.8.5~8.13		試掘調査
18	東久保南遺跡第29地点	東久保60-5	357	駐車場	2003.5.19~5.28		試掘調査
19	東久保南遺跡第30地点	東久保58-13画地	164	個人住宅	2003.8.4~8.5		試掘調査
20	東久保南遺跡第31地点	東久保59-1,2画地	2,948	店舗	2003.8.21~9.1	2003.9.5~10.5	試掘後、調査会で本調査
21	東久保南遺跡第32地点	ふじみ野4丁目9-4	289	店舗	2004.1.26~1.29		試掘調査
22	西ノ原遺跡126地点	旭1-13-6,7	153	個人住宅	2004.2.23~2.25		試掘調査
23	神明後遺跡第22地点	苗間235-2,3	430	分譲住宅	2003.7.8~7.29		試掘調査
24	浄禅寺跡遺跡第23地点	苗間592-1	100	個人住宅	2003.4.28		試掘調査
25	小田久保遺跡第5地点	大井1023	165	個人住宅	2003.8.18~8.19	2003.8.20~9.2	教育委員会で本調査
26	本村遺跡第104地点	市沢3-4-1	804	共同住宅	2003.5.14~5.30		試掘調査
27	本村遺跡第105地点	大井2-12-4	131	個人住宅	2003.6.4~6.6		試掘調査
28	本村遺跡第106地点	大井2-1-11	135	分譲住宅	2003.7.2~7.8		試掘調査
29	本村遺跡第107地点	大井2-12-4	130	個人住宅	2003.7.3~7.5		試掘調査
30	本村遺跡第108地点	市沢2-6-25	109	個人住宅	2003.7.17~7.23		試掘調査
31	本村遺跡第109地点	市沢2-6-26	114	個人住宅	2003.7.17~7.23		試掘調査
32	本村遺跡第110地点	市沢2-6-27	101	個人住宅	2003.10.16~10.18		試掘調査
33	本村遺跡第111地点	大井2-16-2	1,033	分譲住宅	2003.11.4~11.20	2003.11.21~12.11	試掘後、調査会で本調査
34	西台遺跡第3地点	大井西台925-1	137	個人住宅	2003.6.16~6.30		試掘調査
35	西台遺跡第3地点	大井西台925-2、9	144	個人住宅	2003.6.16~6.30		試掘調査
36	西台遺跡第3地点	大井西台925-10、13	141	個人住宅	2003.6.16~6.30		試掘調査
37	西台遺跡第4地点	西台894-14,911-56	164	個人住宅	2004.1.15~1.16		試掘調査
38	東台遺跡第40地点	大井661	1,875	幼稚園	2003.10.6~11.4		試掘調査
面積合計			35,359				

XVIII 小田久保遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

小田久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.3 km、砂川堀の左岸、標高23～28mに位置する。本遺跡をのせる台地は緩やかな斜面を形成するが、対岸の南側台地は急傾斜をなす。

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んだ南側台地上に旧石器時代の石器・礫群を検出した西台遺跡が、本遺跡の東側、微高地の突端には縄文前期住居を検出した大井氏館跡遺跡がある。

本遺跡は市街化調整区域のため比較的武蔵野の面影を残す農村地帯だが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の波が押し寄せつつある。

1990年に最初の試掘調査が行われて以来、過去の調査では数点の縄文土器片を確認しているだけであったが、2003年と2004年の調査において本遺跡では初の住居跡を検出したことにより、本遺跡が縄文時代中期の集落である事が明らかとなりつつある。今後は集落の分布や範囲の解明が待たれる。

分布調査や発掘調査から遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期から中期、中世～近世である。

2 小田久保遺跡第5地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2003年8月8日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の南側、砂川堀まで50m程の南斜面にあるため、原因者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構の存在確認の試掘調査を実施した。

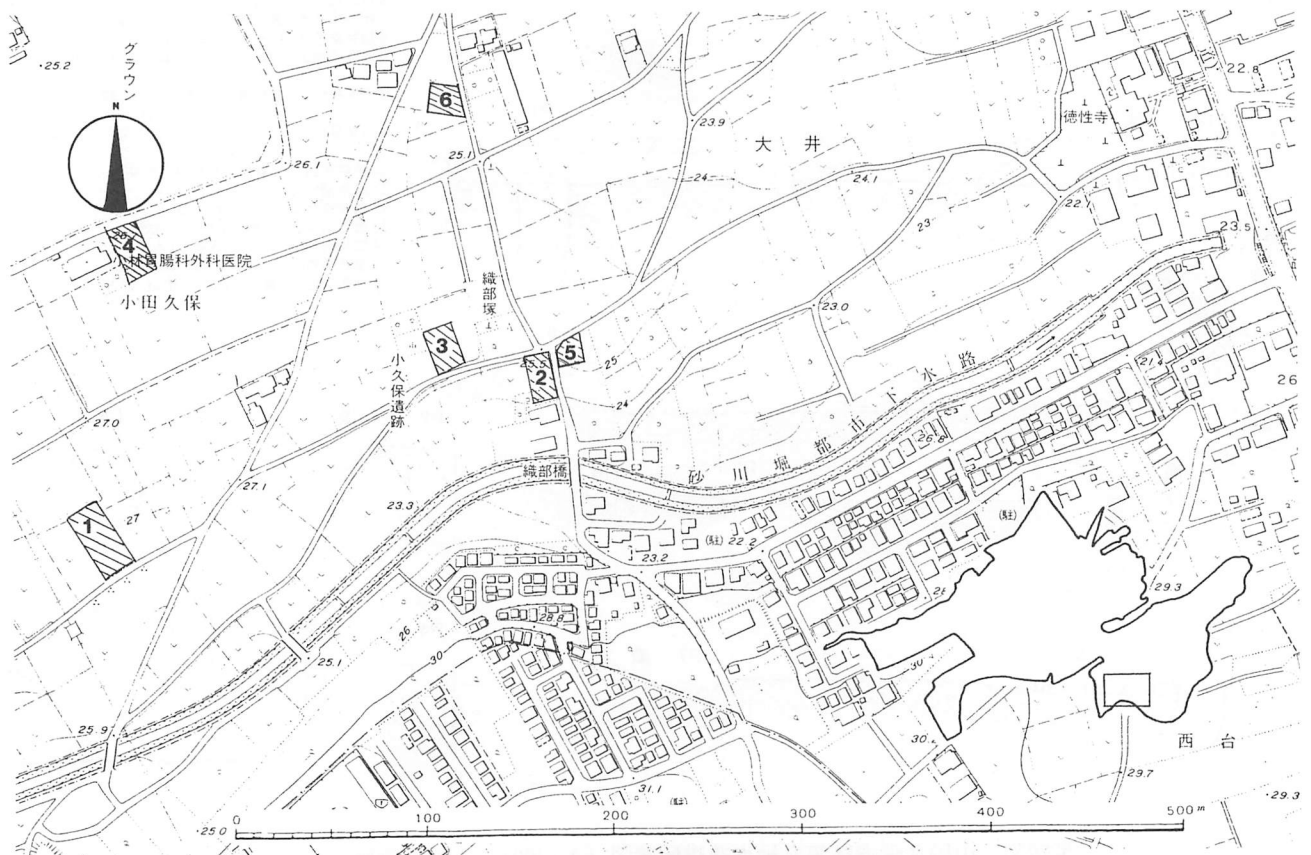
試掘調査は2003年8月18日から翌19日まで行った。幅約2mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果住居跡を確認した。住居跡の確認面まで30cmしかなく建築による遺構の破壊が免れないため、本調査することとした。

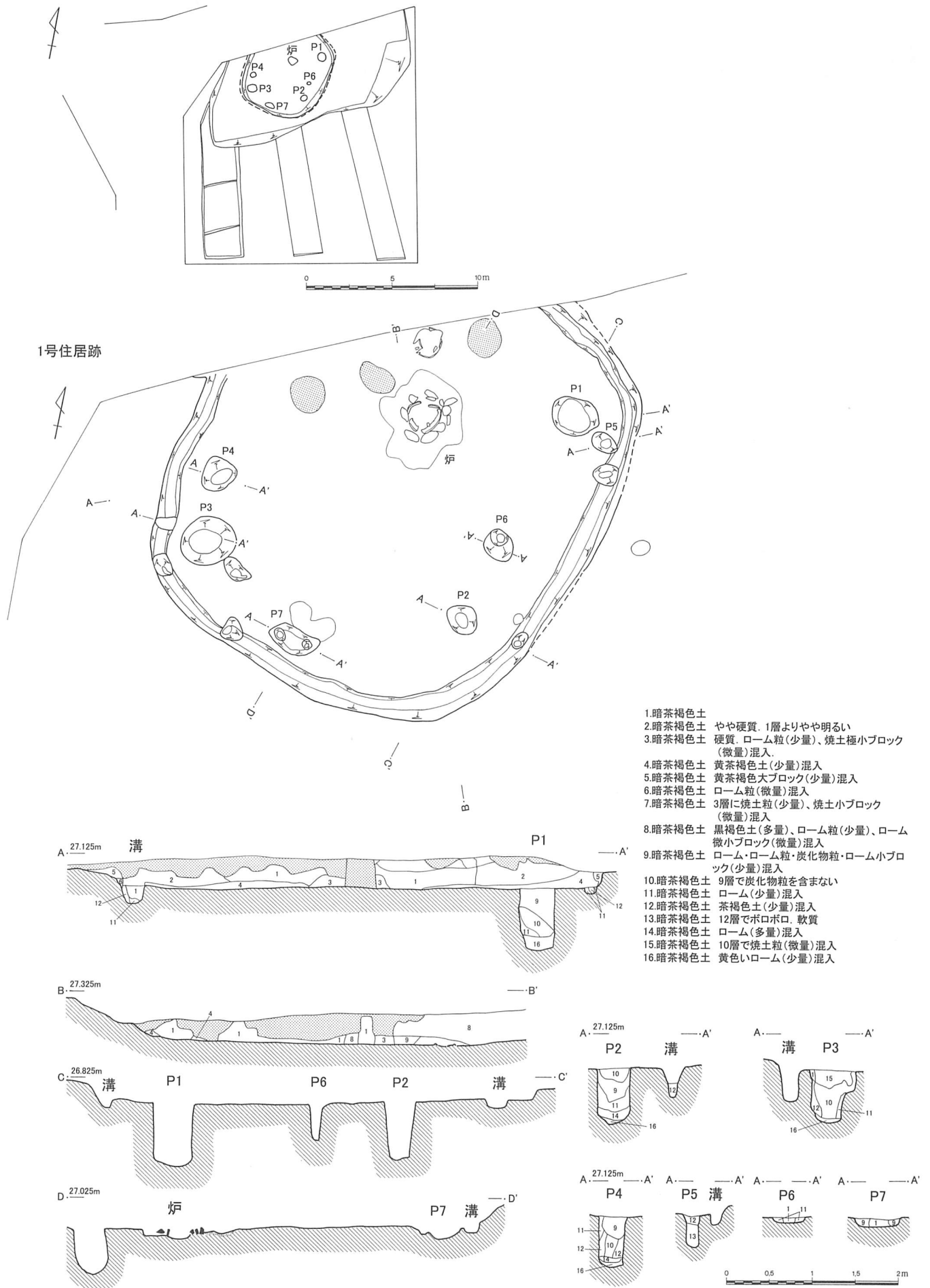
本調査は2003年8月20日から同年9月2日まで行なった。住居跡の範囲を重機で表土除去後、人力による調査を行なった。写真撮影・遺構測等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 1号住居跡

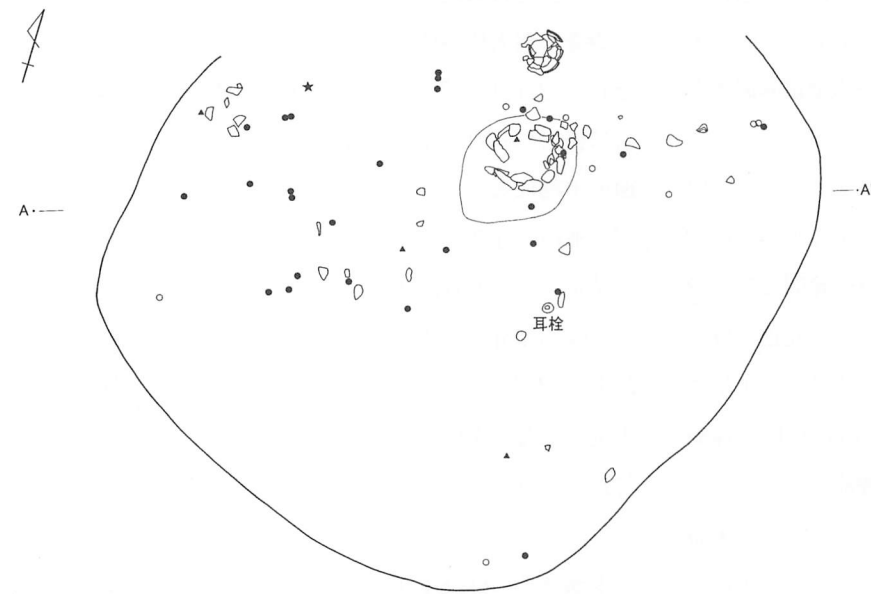
【位置】調査区の北端、遺跡の南側に位置する。本遺跡で初検出の住居跡である。150m北側に2号住居跡がある。



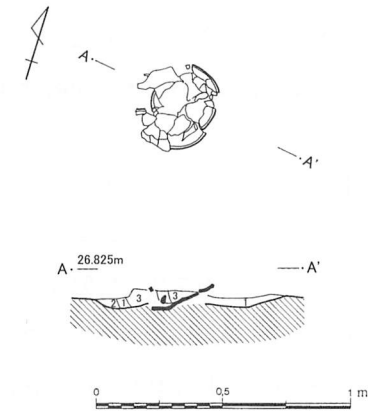


第78図 小田久保遺跡第5地点遺構配置図(1/300)、1号住居跡(1/60)

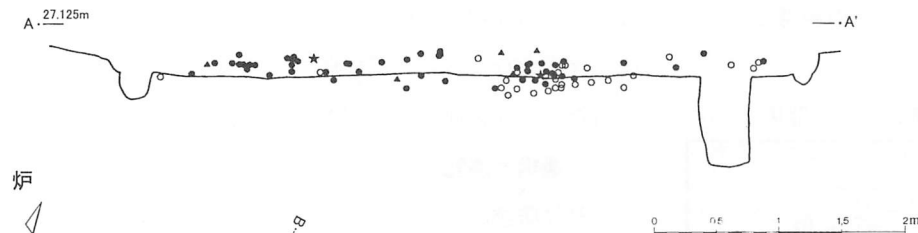
遺物出土状況



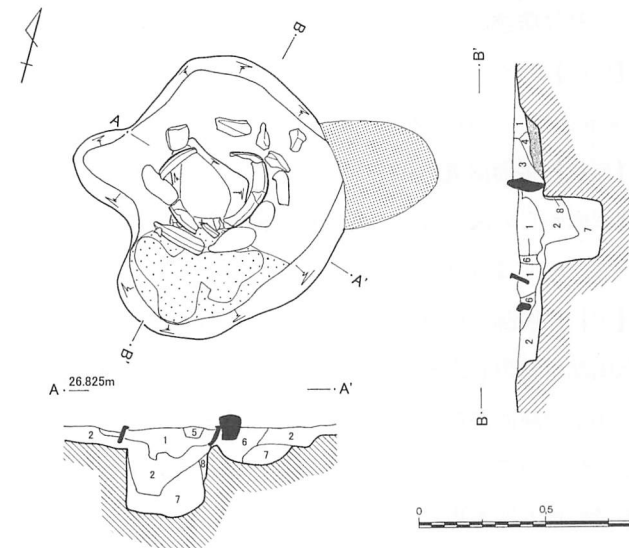
遺物出土状況微細図



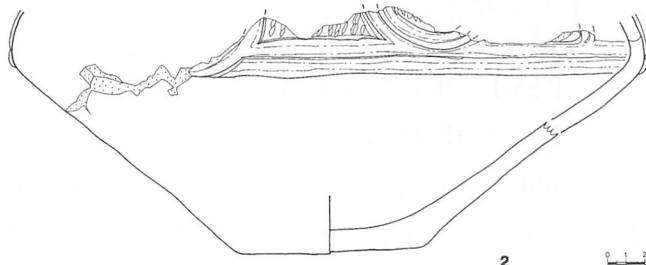
- 1.暗茶褐色土 ローム(多量)混入
2.暗茶褐色土 ローム粒(少量)混入
3.暗茶褐色土 ローム粒(微量)、炭化物粒(微量)混入



炉



- 1.暗茶褐色土 黒褐色土(微量)、焼土粒・焼土微小ブロック(少量)混入
2.暗茶褐色土 やや硬質、ローム小ブロック(多量)ローム粒(微量)混入
3.暗茶褐色土 1層より焼土粒(多量)
4. 焼土
5.暗茶褐色土 1層に焼土中ブロック(微量)混入
6.暗茶褐色土 炭化物粒(微量)混入
7.茶褐色土 ローム小ブロック(少量)混入
8.茶褐色土 被熱で硬化



第79図 小田久保遺跡1号住居跡遺物出土状況(1/60)、炉(1/30)、出土遺物(1/4・1/3)

【形状】北側の一部が調査区域外へ延長するが、平面隅丸長方形を呈する。規模は5.5×4.9m、確認面からの深さ35cm。周溝がめぐる。壁はほぼ直立するが、上端は緩やかに傾斜する。床面はほぼ平坦で踏み固められている。

【炉】住居跡の中央やや北側に位置する。炉は土器口縁部を転用した石囲い埋甕炉である。炉体土器の周囲を拳大の川原石を使って囲う。石囲いの範囲は58×53cm。石囲いの南側は60×40cmの範囲が熱で硬化し焼土が堆積する。炉全体は110×95cmの範囲が浅く皿状に掘り込まれる。炉体土器埋設の掘り込み規模は径38cm、深さ38cm。炉体土器は無文の口縁部。

【周溝】周溝は1本検出した。上幅は15～25cm、床面からの深さ10～25cm前後、断面「コ」字形を呈する。

【ピット】P1～3が主柱穴で柱穴間の距離は2.7～3.1m。

第35表 小田久保遺跡1号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No	平面形態	確認面		底面		深さ	備考
1	楕円形	56	× 46	40	× 35	76	
2	楕円形	40	× 33	19	× 14	67	
3	楕円形	64	× 55	36	× 27	66	
4	不整形	44	× 40	29	× 15	62	
5	楕円形	32	× 20	13	× 10	41	
6	楕円形	39	× 33	11	× 9	43	
7	不整形	56	× 28	47	× 30	34	

【時期】出土遺物から時期は加曽利EⅠ式期。

【出土遺物】1は石囲炉の炉内出土の無文口縁部片で、口径36cm・口縁外径40cm・現存部高6.5cmでほぼ全周する。外反する無文口縁の上面を内側に押し出して平坦面とする。細い沈線以下の体部は欠失する。胎土には白色砂粒と若干の茶褐色微砂粒・金雲母を含み、黄～赤褐色を呈し焼成良好である。時期の細分は困難であるが、中期中葉末か。

2は石囲炉の北方床面上出土で、口唇と口縁部文様帯の大部分を欠く浅鉢で、体部と底はほぼ完存する。口縁下部最大径34cm・底径10cm・現存部高14cmである。僅かに残る文様帯は、地文撚糸文の上に貼付隆帯で区画文と渦巻文を交互に配する。胎土には、白色細砂粒とローム粒を多く含み、黄褐色ないしは暗褐色を呈する。時期は加曽利EⅠ式である。

3は耳栓であり、上下層両端が僅かに開き、外径4cm・孔径1.8cm・高さ1.8cmで黒褐色を呈する。

本住居からは土器の細片が若干出土したが、勝坂Ⅲ式と加曽利EⅠ式のものである。

3 小田久保遺跡第6地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2004年10月12日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北側に位置し、南斜面の頂部にあるため、原因者と協議の結果、遺跡の範囲と遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は2004年10月26日から翌27日まで行なった。幅約2mのトレンチ4本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、住居跡、土坑、集石等を確認した。確認面まで30cmしかなく建築による遺構の破壊が免れないため、本調査することとした。

本調査は2004年10月28日から同年11月13日まで行なった。遺構検出の範囲を重機で表土除去後、人力による調査を行なった。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 2号住居跡

【位置】調査区の南東隅、遺跡内では北側に位置する。150m南側に1号住居跡がある。

【形状】平面隅丸方形を呈する。規模は4.2×4.2m、確認面からの深さ37cm。壁はほぼ直立し、上端は傾斜する。床面はほぼ平坦で踏み固められている。

【炉】住居跡の中央やや北西寄りに位置する。炉は深鉢胴部を転用した埋甕炉である。炉体土器の東側は20×10cmの範囲が熱で硬化し焼土が堆積する。炉全体は55×42cmの範囲が浅く皿状に掘り込まれる。炉体土器埋設の掘り込み規模は径18cm、深さ23cm。

【ピット】P1～5の5本柱穴で柱穴間の距離は1.3～1.7m。

第36表 小田久保遺跡2号住居跡ピット一覧表(単位cm)

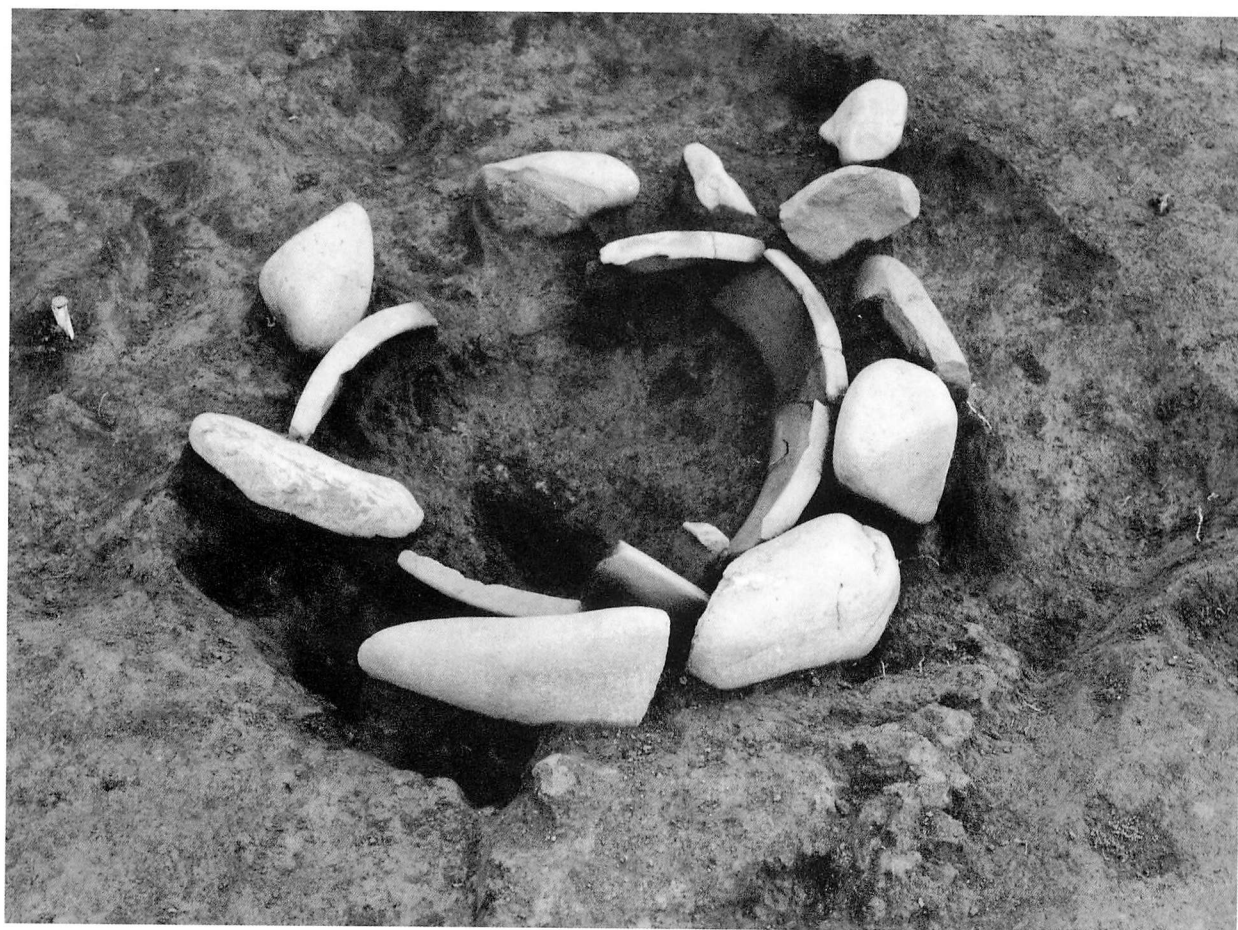
No	平面形態	確認面		底面		深さ	備考
1	円形	42	× 42	11	× 10	59	
2	円形	38	× 35	10	× 7	62	
3	楕円形	41	× 35	14	× 12	62	
4	楕円形	43	× 34	13	× 9	71	
5	円形	28	× 26	11	× 9	57	

【時期】炉体土器から時期は阿玉台Ⅱ式新相。

【出土遺物】1は炉内埋設土器であり、口縁を欠くが胴中位までをほぼ完存する。深鉢の胴下半を打ち欠いて炉体土器に転用したもので、上部径23cm・下部径15.8cm・現存部高18.8cmである。口縁部文様帯を欠失



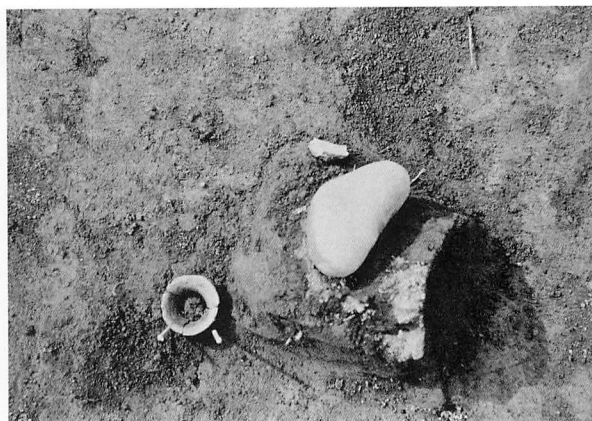
小田久保遺跡第5地点1号住居跡



小田久保遺跡第5地点1号住居跡炉



小田久保遺跡 1 号住居跡土器出土状況



小田久保遺跡 1 号住居跡耳栓出土状況

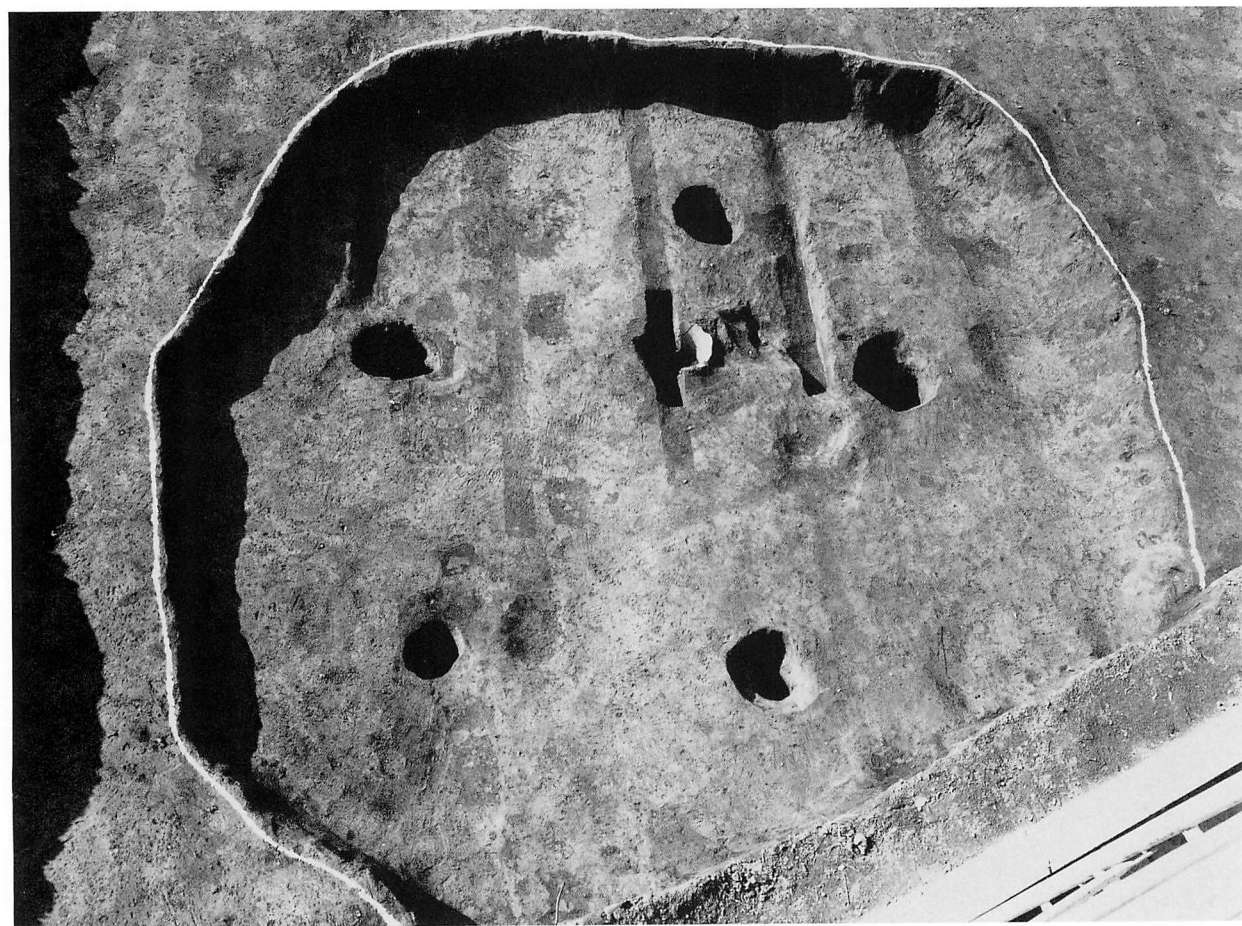


小田久保遺跡 1 号住居跡炉体土器

小田久保遺跡 1 号住居跡耳栓



小田久保遺跡 1 号住居跡出土土器



小田久保遺跡第 6 地点 2 号住居跡